



一般
社団法人 電池工業会
BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011
東京都港区芝公園三丁目5番8号
機械振興会館内
電話 (03) 3434-0261 (代)
ホームページ <https://www.baj.or.jp/>
ご意見・お問い合わせ <https://www.baj.or.jp/contact/>
発行人 清水義正

2025年1月号

新年賀詞交歓会を開催

一般社団法人電池工業会は、2025年1月10日（金）、東京プリンスホテルにて「2025年 新年賀詞交歓会」を開催した。また、これに先立ち同ホテル内の別会場で「2024年度 優良従業員表彰式/BAJ 活動表彰式」を実施した。



一般社団法人電池工業会 村尾修会長挨拶
あけましておめでとうございます。

日頃より電池業界のご理解と発展に、ご厚情を
いただいております関係各位に対しまして、心より御
礼申し上げます。

それでは、僭越ではありますが、2025年の新春

を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年、2024年はエネルギーの大転換期とも言
える年でした。電池業界においても、再生可能エネ
ルギーや自動車の電動化が一層進展し、カーボン
ニュートラル実現への具体的な道筋が明確化され
ました。一方で、円安による資源コストの上昇や地

政学的リスクが引き続き課題となり、厳しい経営環境が続きました。

さらに、蓄電池のサステナビリティに関する課題にも取り組む必要があります。環境規制の強化に伴い、製品のライフサイクル全般での低環境負荷化が求められる中、電池工業会としても国際標準化への対応や規制緩和への提言に引き続き注力してまいります。

さて、電池関連の事業環境を見てみますと、カーボンニュートラルに向けた、再生可能エネルギーの利用拡大が着実に進み、又、最近は少し動きが鈍化しているとはいえ、世界的に自動車の電動化が進む事は確実なトレンドでありますので、これらが電池業界への大きな追い風である事は、ゆるぎない状況であるものと思います。

皆様ご承知おきの通り、「蓄電池の製造サプライチェーン強靱化支援事業」では、令和5年度補正予算の2,658億円、令和6年度当初予算2,300億円で予算化がなされており、令和6年度補正予算の1,778億円を含めると、過去からの累積で1兆円を超える規模で蓄電池政策に係る予算化を頂いております。

これらにつきましては、経済産業省 電池産業課 青木（あおき）課長様をはじめ、関係者の皆さまからの多大なるご支援の賜物と考えており、改めて深く感謝申し上げます。

我々電池工業会としても、この手厚いご支援に対し、しっかりと応えて行かなければなりません。

これまで2021年11月から2022年8月迄、経済産業省様主催で、蓄電池産業戦略検討官民協議会が開かれておりましたが、2023年度からは蓄電池産業戦略推進会議となり、『蓄電池産業戦略』の推進状況のフォローアップを行っていく形

となりました。

昨年11月に開催された第2回蓄電池産業戦略推進会議では、電池工業会の定置用LIBに関する活動内容について、状況の報告をさせていただいております。

簡単に概略を述べさせていただきますと、

- （１）長寿命かつ安全性の高い日本製電池の強みを反映させた国際標準化の策定推進
- （２）NITE様との連携による電池安全面・機能面に関する実証評価の推進
- （３）消防庁様と連携した規制緩和等による国内電池製造環境の整備・強化への取組みといった内容となっております。

引き続き、定置用LIBにつきましては、本日ご出席頂いております、経済産業省 電池産業課様、資源エネルギー庁様、消防庁様をはじめ、NITE様、JEMA様等の関係団体の皆様と連携を強化し普及促進を進めて参りますので、ご支援ご協力の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

今年、2025年の干支「乙巳（きのと・み）」は、再生と変化を象徴すると言われています。この新たな時代にふさわしい変革を遂げるべく、会員の皆様とともに歩んでまいりたいと思います。

結びに、会員の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

引き続き、経済産業省 電池産業課 青木課長より来賓挨拶があり、乾杯の音頭は長野副会長が務め、会は活況を呈した。賀詞交歓会は、正・賛助会員各社、経済産業省など政府関係、関連企業、関連団体などの出席を得て、終始盛況のもと、只信福会長の締めの挨拶で終了した。

優良従業員表彰/BAJ 活動表彰

新年賀詞交歓会に先立ち、2024年度優良従業員表彰式/BAJ 活動表彰式が行われ、村尾会長より各受賞者に賞状と記念品が授与された。

優良従業員表彰 受賞者（順不同、敬称略）

小島 修	（エナジーウィズ株式会社）	伊藤 祐悟	（エナックス株式会社）
齊藤 五月	（ＦＤＫ株式会社）	松本 泰生	（ＦＤＫ株式会社）
田中 哲也	（エリーパワー株式会社）	手塚 雅之	（株式会 AESC ジャパン）
河見 直明	（株式会社 ＧＳユアサ）	牧 政志	（株式会社 ＧＳユアサ）
高野 吉博	（セイコーインスツル株式会社）	畑山 直哉	（株式会社 東芝）
鍵和田 隆之	（東芝ライフスタイル株式会社）	蓮子 秀廣	（パナソニックエナジー株式会社）
山下 栄治	（パナソニックエナジー株式会社）	渡邊 潤	（古河電池株式会社）
関 稔	（マクセル株式会社）	平井 実	（株式会社三菱電機ライフネットワーク）
石澤 重信	（株式会社東北村田製作所）	佐々木 秋治	（株式会社東北村田製作所）



伊藤 祐悟（エナックス株式会社）様 欠席



松本 泰生（ＦＤＫ株式会社）様 欠席







BAJ 活動表彰 受賞者（順不同、敬称略）

宇山 孝男 （パナソニックエナジー株式会社）

井上 剛文 （株式会社 GSユアサ）

饗庭 雪子 （F D K株式会社）

寺岡 浩仁（F D K株式会社）

来仙 貴久（マクセル株式会社）



第 113 回 二次電池第 2 部会を開催

2024 年 12 月 6 日（金）、浅利部会長（パナソニック）を議長に第 113 回二次電池第 2 部会を機械振興会館での対面会議および Web で開催した。開会に際して、事務局より BAJ 競争法コンプライアンス・ルールを遵守することが確認されたのち、浅利部会長ならびに清水専務理事の挨拶があった。続いて前回議事録の確認後、各委員会の代表者より、これまでの活動報告を行った。



1. 部会長挨拶

2024 年 1 月 1 日に能登半島地震があり、電池工業会から被災地に乾電池の供給支援を行いました。正月などの休暇中に震災などが起きた時に対応できるよう、各社での準備をお願いします。

一方、アメリカではトランプ氏が大統領選に勝

利して、共和党が上下院の多数を占めるトリプルレッドの状態で、関税、サプライチェーンを含め制度が変化していく中、電池工業会での対応を十分に行っていきたいと考えています。

2. 専務理事挨拶

2025 年度事業計画策定に向けて準備を進め

ており、年明けには確定したいと考えておりますので、ご協力をお願いします。

2025 年 1 月 10 日、賀詞交歓会、優良従業員表彰式を実施します。今回から IEC 活動に尽力頂いた方を表彰することを考えています。背景には、エキスパートを強化していく活動をしていく中、頑張った方を表彰して、個社でも評価して頂けるよう、理事会でもアピールしたいと考えております。

11 月 19 日、蓄電池産業戦略推進会議が開催され、BAJ から定置用蓄電池の強化について発表を行いました。IEC の CFP 計算方法・安全規格の進捗、中国の IEC 規格に対する牽制、NITE との連携による海外製電池の類焼試験結果報告、消防法規制緩和によるリードタイム短縮、固定費削減の効果を説明しました。国内 150GWh の目標に対して 120GWh まで見えてきたと説明されていましたが、着実に皆様と連携して進めていきますので宜しくお願い致します。

3. 各委員会報告

◆技術委員会

(1)各分科会報告

<リチウム二次分科会>

- ・IEC SC21 WG4 会議での IEC62133-2(ポータブルリチウム二次安全)改訂の決定事項報告と宿題事項対応が行われた。
- ・電動アシスト自転車、小型モビリティ用 LIB の新提案が技術委員会で審議され、小グループを設置し、技術審議等に対応する予定。

<LIB 安全性技術 WG>

- ・IEC62660-3(自動車用 LIB 安全)における強制内部短絡代替試験のパラメーターを自動車メーカーが作成。代替試験はパウチセルに加えて角型セルでも実施する予定。

<据置 LIB 分科会>

- ・JIS C 8715-2(産業用 LIB 安全)の電安法対応は電気用品整合規格検討 WG で技術基準に採用することが妥当と判断され、2025 年 1 月以降に別表第十二が改正される見込

み。

- ・IEC62620 Ed2(産業用リチウム二次電池性能)は PT 会議で SOH および Durability の定義について議論され、11 月の WG5 会議に提案される予定。

<非駆動用車載 LIB 分科会>

- ・四輪自動車技術会補機 LIB WG で、鉛バッテリー代替補機用 LIB の標準化に向けた課題検討を実施。

<ニカド・ニッケル水素分科会>

- ・IEC 61951-1(ポータブル機器用途 Ni-Cd 電池性能)/IEC 61951-2(ポータブル機器用途 NiMH 電池性能) Ed5 は、SC21A WG2 に向け、提案内容の説明スライドと CD ドラフトの審議を実施。
- ・IEC 62133-1(ポータブル機器用途 Ni 系二次電池安全)Ed2 は CDV のコメント提出と賛成投票を実施。2025 年 6 月 IS が発行される予定。

<産業用ニッケル水素分科会>

- ・IEC 63115-1(産業用 Ni-MH 性能)、IEC63115-2 Ed2(産業用 Ni-MH 安全)は PT 会議にて、CD 段階へ移行し、SC21A WG1 メンバーの意向を確認することを合意。

<PSE WG>

「消費生活用製品安全法等の一部を改正する法律」関連の政・省令による運用ルール対応
・「規制の実効性を高めるための措置」とし、届出事項の簡略化する運用ルールを省令で整備する旨説明。要件を満たせば、工場所在地等の届出を不要とする考えが提示。

- ・改正案のパブコメ実施中（～12/10）

今後の予定は、公布：2024 年 12 月下旬
/施行：2025 年 12 月下旬

- ・令和 4 年度試買テストの結果も令和 3 年と同じくモバイルバッテリーの過充電保護の不適合が多いと報告された。令和 5 年分からは適正化されると思われるため、継続ウォッチする。

<蓄電システム WG>

・国土交通省「公共建築工事標準仕様書」「公共建築改修工事標準仕様書」「公共建築設備工事標準図」の改定二次案に対する意見募集依頼があり、個社の意見収集を行い、9月24日に回答。

<リユース規格分科会>

・IEC63338 をもとに BAJ HP(リチウムイオン二次電池の再利用について)の改訂検討。
・IEC63330(リパース製品規格)は JARI で Part2 WD3 のコメント審議中。
・CENELEC(欧州 EN 規格)の TC21X/WG6 AI13 は車載用から産業用へのリユース前提の規格を構築中だが、議論が進まず、IEC63330-1 の内容を日本から情報提供したところ、受け入れられない国があり継続的に課題を確認する。

<CFP 規格分科会>

・IEC63369-1 Ed1(産業用 LIB CFP 計算規則)の10月のPT会議でCDVの審議が終了。次はFDISに進まずCDV2の予定。
・国内版産業用蓄電池 CFP 算定ルールについて経産省電池産業課と打ち合わせを実施。

(2)技術委員会対応の活動報告

BASC 主催 ISO/TC333 国内委員会対応
他

(3)技術委員会における審議事項

・電動アシスト自転車用 LIB の新設に関する審議が行われた。関係団体との JWG 設置を要望するコメントと合わせて賛成で投票。リチウム二次分科会の中で小グループを設置して、技術審議を行う。

◆国際電池規格委員会

・IEC SC21A 国際会議が11月19日から21日にパリで開催され。8WG、Plenary、CAG(Chair Advisory Group)で議論が交わされた。各 WG のコンビナーから活動報告があり審議が行われた。Plenary では各 WG の

決定事項のリスト化が行われ、次回から WG 会議前に CAG 会議を実施することが正式決定された。

・新規性のある技術的な課題、規格開発制度の説明があり、新たに OSD(Online Standard Development)が導入されることが紹介された。

・規格開発は2025年から4つの新しいプロジェクトが立ち上がり、25年後半には殆どの規格の動きに対応することが想定される。

◆国際電池輸送委員会

1.2 リチウム電池ハザードベース区分検討 国連インフォーマル WG

・ハザードベース区分の粒度に関してシンプルなもの求められているが、複雑になる傾向、事務局側で整理して相談予定。非公式文書を第65回国連会議(2024年冬)で報告、正式文書を第66回国連会議(2025年春)に向け作成予定。2025年3月上旬、上海で会議開催予定。

1.3 SAE G-27 会議

・AS6413, AIR6840 の基準書が10月9日に正式発行され、ICAO DGP-WG/24(10月)で、ICAO TI での活用方法を問う文書を提出した。次版への進め方に関し意見交換が行われた。11月12から15日の第25回 SAE G-27 回会議(@ダラス)にはオンラインで参加。

1.4 ICAO DGP-WG/24 会議

・10月21から25日に開催され、リチウムイオン電池などの航空輸送に関する正式提案11件、非公式提案3件が審議された。電池業界に大きな影響のある決定事項は無く、主な審議内容は、SAE G-27 の新包装基準の ICAO TI での活用が継続審議、ナトリウムイオン電池をリチウム電池と同等の扱いとする提案、手荷物における移動補助器具の電池の扱いに関して継続審議など。

1.5 第 65 回国連危険物輸送専門家小委員会

・2 年周期のまとめとなる 11 月 25 日から 12 月 3 日の会議(@ジュネーブ)に向けて、11 月 5 日、危険物 UN 対応部会に参加。電池業界に直ちに大きな影響を及ぼす提案は無かった。ハザードベース区分の提案が英国から多数提出されたが、小委員会で技術審議する内容でなく、UN-IWG で議論するよう誘導する方針で対応。また、国連容器によらない輸送に関する editorial 的な明確化、韓国から試験時の電池固定方法に関する提案、リチウム組電池の短絡試験免除提案、修理や再利用の電池に関する国連試験の扱いに関する提案、設計的にケースの隙間から中身が見える組電池の開裂(rapture)に関する判断基準の提案などに適宜対応することとなった。

1.6 『リチウム金属電池およびリチウムイオン電池の輸送に関する手引書』第 12 版

・航空輸送規則の集中審議を実施して 2025 年 1 月発行に向け原稿を完成する予定。

2 小型全固体 LIB 輸送 WG

・UN-IWG(8 月)および ICAO DGP-WG/24(10 月)会議に参加。熱暴走の有無がハザードベース区分に組み込まれたので、UN-IWG での議論に包含されることが確実になった。ICAO DGP-WG/24 会議では非公式文書としてプレゼンを行い、おおむね好評な感触を得た。今後、UN-IWG での提案を中心に全固体 LIB の立ち位置を有利に運んでゆく。同時に、ICAO DGP で逐次フォローアップを行い、理解を得る活動も重要と考える。

◆普及促進委員会

1. 普及促進委員会

(1) 2024 年度政府への提言活動について

①中国黒鉛輸出規制に対する支援は電池産業課より、代替国へのアポイントなど相談可のコメントをいただいた為、個社で対応となった。②

CN 実現に向けた再エネ導入・GHG 削減支援③資源リサイクル推進について検討を継続。

(2) 蓄電池産業戦略活動

・蓄電池産業戦略推進会議が 11 月 19 日に開催され、電池産業課から蓄電池産業戦略の関連施策の進捗状況及び蓄電池を取り巻く主な環境変化の報告があり、BAJ からは定置用蓄電池強化に向けた取組として、国内基盤拡充のための政策パッケージ、グローバルアライアンス、グローバルスタンダードの戦略的形成と国内の環境整備強化について説明した。委員から安全性が正当に評価される仕組みを日本から発信すべきというコメントを頂いた。

2. 定置用 LIB 普及強化 WG

(1) 2024 年度定置用蓄電システム普及拡大検討会

・資源エネルギー庁主催の検討会が 11 月 11 日に開催された。家庭用及び業務・産業用蓄電システムに関する課題が報告され、蓄電システムコストの高止まりに対して、導入制度の拡充やメリットを打ち出していく必要があるとコメントされた。

(2) 日本製 LIB 優位性の定量的評価に向けた活動

・0℃下での低温充電サイクル試験を実施することを NITE と合意し、9 月 9 日にスタート。3 ヶ月間の試験が 12 月上旬に終了する予定。サイクル試験後の解体調査でリチウム析出有無を確認していく。また、類焼試験で多量のガスが発生したため、ガス分析を予定。

3. 法規 WG

(1) 消防危第 303 号について

・9 月 9 日、保安室、KHK(危険物保安技術協会)、BAJ の 3 者で意見交換会を実施。303 号記載の耐火性収納箱等に適合することを示す「試験確認済証(KHK 発行)」の取得については実際の使用状況に沿った条件での判定を KHK と相談可能であることが確認でき

た。

(2) リチウムイオン蓄電池に係る危険物規制等の連絡会

・特例基準の運用について改善点を要望。配布された資料を確認して認識を合わせた。また、消防庁内連絡会では BAJ、BASC、JAMA から電池の説明を行い、消防関係者の電池全般に関する理解を深めることができた。今後、製造工程の残課題を整理して消防庁との連携を継続する。

◆PL 委員会

活動報告

(1)表示ガイドライン

・24 年 6 月第 7 版発行。現時点で修正の要請なし。

(2) 電池の正しい使い方等に関する啓発資料作成

・BAJ HP の「安全で正しい電池の使い方」について、ニッカド電池・ニッケル水素電池、リチウムイオン二次電池の内容見直しを検討中。We Love DENCHI との整合についても確認中。また、処理とリサイクルのリンクについて再資源化委員会に相談する。

(3) 電気用品安全法に関する対応

・事故事例調査部会からの電安法対応要否調査依頼に対応中。

(4) 事故情報データシステムによるデータ収集と事故低減に向けたアクション検討

1)事故発生推移

(a)モバイルバッテリー :7-9 月期は 4 - 6 月期より増加。4 半期で最大となる 48 件。

(b)スマートフォン : 7-9 月期は発生ゼロ件。

(c)ノートパソコン : 7-9 月期は 4 件発生。例年並。

(d)電動アシスト自転車 : 7-9 月期は 9 件発生。1-9 月で計 21 件。例年並。

(e)充電式電気掃除機 : 7-9 月期は 4 件発生。1-9 月 計 14 件。例年並。

(f)ポータブル電源 : 7-9 月期は 15 件発生。1-9 月 計 37 件。昨年 38 件を超える勢い

2)事故低減へのアクション検討

・これまで消費者庁の事故情報データバンクシステムを使用した。NITE の SAFE Lite で詳細情報の分析を実施。原因未特定が多く、事故防止に繋がっていないことが懸念で、関係省庁に課題と対策を提言できるよう検討中。

◆再資源化委員会

活動報告

1. 充電式電池の回収・再資源化の政府・業界対応窓口

・経産省資源循環経済課主催で「リチウム蓄電池に起因した発煙・発火事故低減に係る事業者等検討会」に参加。

2. 回収できない充電式電池(機器内蔵含む)への方策検討

・BAJ HP の小型充電式電池に関する一般消費者への購入・廃棄に対するの注意喚起文のリンク先追加ならびに内容変更を行った。

◆広報総合委員会

活動報告

(1) PR 活動

① コイン形・ボタン形電池の乳幼児誤飲事故防止

・小田急線ドア横の窓ガラスへ 9 月 14 日から 1 年間掲出中。現役保育士の育児漫画家を採用して 10 月 25 日Instagram に投稿、閲覧数約 5 万人、フォロワー 7.6 万人。

② 自動車用バッテリーの定期点検・買い替え促進

・11 月 25 日プロ野球最優秀バッテリー賞を開催。

③ 小型充電式電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起

・3 分クッキング月刊誌 1 月号に啓発広告を掲載予定。ゴミ清掃芸人マシンガンズ滝

沢さんを起用して、2月にX(旧 Twitter)に注意喚起投稿を準備中。

(2) キャンペーン

・でんち川柳コンテストの作品募集を9月から12月に行い、25年1月審査、2月当選発表を行う。昨年は2715名応募。

(3) イベント活動

・手づくり乾電池教室は13件実施済み、残り3件実施予定で年間合計16件開催。

(4) 情報発信

・機関紙「でんち」：毎月発行
・We LOVE DENCHI：イベントや手作り乾電池教室で配付

◆国際環境規制総合委員会

1.2 環境関連国際会議への参加

・ICBR2024 (国際電池リサイクル会議)に2名参加。リサイクル技術のテーマが中心で、湿式プロセスの改良、ダイレクト・リサイクル、バッテリーの自動解体など、収益性の改善を目的とした講演が見られたが、多くは試行段階。日本は処理技術も投資もEU、米国、中韓から大きく立ち遅れているという所感だった。

1.3 地域別環境情報

(1) 欧州

・2025年3月に開催されるECHAのリスク評価委員会(RAC)と社会経済分析委員会(SEAC)で「ユニバーサル PFASに関する制限提案のセクター／用途別側面の評価」が実施され、エネルギー(電池)セクターが議論される。

(2) 北米

・米ニューハンプシャー州で2024年8月23日、埋立処分と焼却処分の禁止対象にリチウムイオン電池と特定の電子機器を追加する法案(HB 1386)が州知事に承認され、法律として成立、2025年7月1日に発効する。

・米国EPAが16の個別PFASおよび100種類以上のPFASに相当する15のカテゴリーをTRIに追加する提案規則を公表した。

(3) アジア

・インド中央公害管理委員会(CPCB)は2024年9月3日、廃電池の拡大生産者責任(EPR)制度における環境補償金に関するガイドラインを公布した。

4. JBRC 報告

以下の報告があった

I. 会員状況

II. 回収状況 (2024年度上期実績)

III. 具体的施策実施内容

1. 再資源化活動の深耕と強化

2. 安全とコンプライアンスの徹底

3. 持続可能な経営体制作り

4. その他

5. JBRC 創立 20 周年記念講演会・懇親会

IV. 2024 年 10 月回収実績

・回収量 131 t (前年比 96%)

5. 事務局報告

・関係省庁が主催している検討会、公開情報の概要を紹介した。

① 蓄電池の安定供給の確保／経産省電池産業室

② 消費経済審議会製品安全部会／経産省製品安全課

③ 電気用品調査委員会・事故事例調査部会／日本電気協会

・二次電池第2部会開催予定

2/7(金) 機械振興会館 6-67 会議室

+ Teams

以上

2024 年度 第 3 回一次電池部会を開催

2024 年 12 月 25 日（水）、植松部会長（セイコーインスツル株式会社）を議長に 2024 年度 第 3 回一次電池部会を Web 会議で開催した。開会に際して、植村部会長より BAJ 競争法コンプライアンス・ルールに則り、部会進行する旨の宣言がなされた。清水専務理事の挨拶、続いて前回議事録の確認後、各委員会代表者より、これまでの活動報告を行った。

（１）植松部会長の挨拶

本日は 2024 年最後の一次電池部会となります。12 月は師走と言われますように皆様今期の着地見通しや来期の準備等に忙しくされていると思います。インフルエンザやマイコプラズマ肺炎などの感染症も増加しているとのニュースを聞きます。各委員会での集まりや意見交換等を行う場合は、引き続き感染症対策、体調管理に十分ご注意くださいようお願い致します。

（２）清水専務理事の挨拶

今年もあとわずかです。年明けには電池工業会の賀詞交歓会を開催予定です。300 名ほど出席と聞いておりコロナ明けから例年の人数に戻ったと思っております。2 点目は事業計画のヒアリングを年明けからスタート致します。現在作成中ですが、各委員会の取組みを明確にいただき実践できるよう策定をお願いしたいと思います。

最後に、今年 1 月 1 日北陸で地震が発生いたしました。この時、緊急物資の支援について経産省から連絡がありましたが、メーカー各社がお休みということもあり、なかなか連絡がつかませんでした。無いに越したことはありませんが、万一の時にはしっかり連絡体制をとっていただきたいと思います。それにより電池工業会、電池メーカーとして災害に対する対応ができるようになります。是非連携の程、宜しく願います。

（３）審議事項

1) 各専門委員会の活動報告

①ボタン電池回収推進委員会

委員長より資料を基に下記の報告があり、承認された。

* 回収実績（4～11 月）

・協力店数は微増、回収依頼は微減。

* 法改正の動向

・目立った進展はなし

②器具委員会

委員長より資料を基に下記の報告があり、承認された。

* 委員会開催実績について

* BAJ 規格「SBA S 1601 携帯電灯」の改正検討について

・明るさに関わる試験及び電池放電時間試験に関し改正を実施

* 第 1、2 回標準化委員会の開催について

* 今後の活動予定について

③資材委員会

委員長より資料を基に下記の報告があり、承認された。

* 2024 年度第 3 回委員会活動報告

・主要 4 材料の需要動向、価格動向

・下請法違反に関する意見交換

* JOGMEC 様との情報交換会について

・金属企画部 調査課 7 名

④消費者委員会

委員長より資料を基に下記の報告があり、承認された。

* 2024 年度活動報告

* 支援物資の供給可能数の定期更新結果について

* 視察研修会 熊本震災ミュージアムと周辺の震災遺構への訪問

⑤ P L 委員会

委員長より資料を基に下記の報告があり、承認された。

＊2024 年度委員会開催状況について（第1～4 回開催済み）

＊2023 年度一次電池重要クレーム情報からの BAJ ホームページ内容更新

＊NITE 速報/国民生活センター 事故情報、PL 関連情報の共有について

＊視察研修会マツダミュージアム訪問

⑥技術委員会

1.JIS 規格原案作成

・JIS C8513 の改正に着手、26 年 2 月原案作成完了予定。

2.IEC/TC35（一次電池）国際規格原案作成

・IEC 60086-1 2ndCD が発行済。IS は 25 年 12 月 31 日で決定。

・IEC 60086-2 水溶液系と非水溶液系に分割する規格の CDV が承認された。

IS 発行時期は、86-1 の時期を合わせる。

・IEC 60086-3 Stability Date は 2026 年になった。

・IEC 60086-4 次版 FDIS が承認。IS は 25 年 2 月を予定。

Saline soak test は、26 年 1 月 TR 発行予定。

・IEC 60086-5 中国 NC からコンベナーが立候補。今後規格開発が進行する。

・IEC 60086-6 次版プロジェクトを開始することが決議された。IS は 27 年 12 月予定。

・IEC62281 Stability Date を 2027 年にすることが決議された。リチウム電池に係わる輸送手引書を編集集中、2025 年 1 月に第 12 版を発刊予定。

3.コイン形リチウム二次分科会

・IEC61960-4 9 月の会議にて”内部抵抗が 3Ωを超えるコイン形リチウム二次電池

を IEC 62133-2 ED2 の Scope 外とし、それらの電池の誤飲対策は IEC 61960-4 でカバーする”ことが決議された。決議を受け、11 月の会議で IEC 61960-4 の改訂を起案し、了承を得た。

＊その他事項

・グリーン購入法のヒアリング対応

グリーン購入法の特定調達品目の判断基準見直しについて、パブコメを提出した。

・TWG+会議出席（11/25：web 会議）

各国、環境対応等の報告があった。

・誤飲アンケートの進捗状況

結果公表は、25 年 10 月予定

⑦国際環境規制総合委員会

委員長より資料を基に下記の報告があり、承認された。

＊ICBR 参加報告

＊地域別環境規制アップデート

・欧州：ユニバーサル PFAS 制限の評価日程

・北米：ニューハンプシャー州がリチウムイオン電池を埋め立て禁止に、EPA が 100 種類以上の PFAS を TRI（有害化学物質排出目録）に追加

・中南米：特記事項なし

・アジア：インドの廃電池 EPR における環境補償金（未達への課金）ガイドライン

⑧広報総合委員会

二次電池第 2 部会資料参照

（４）事務局報告

1）統計データ報告

2024 年度 10 月度（4 月～10 月累計）の販売数量・販売金額の自主統計について報告。

以上

2024年12月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	12日(木)	国際環境規制総合委員会	地域別アップデート、来年度事業計画他
	13日(金)	広報総合委員会	啓発用動画確認他
	18日(水)	蓄電池設備整備資格者講習実施委員会	神奈川県、高知県会場の修了考査審議
	18日(水)	新種電池研究会	工場視察見学
二次電池部会	6日(金)	自動車鉛分科会	IEC 600095-8 規格案審議
	6日(金)	据置アルカリ分科会	IEC 60622 改正CD案へのコメント作成 他
	11日(水)	自動車技術サービス分科会	TS-008、TS-012リーフレット内容更新作業
	13日(金)	電気車鉛分科会	SBA S 0402 鉛蓄電池用セパレータの改正審議
	16日(月)	産電リサイクル委員会、広域認定分科会	新規広域認定取得に伴うリーフレット改訂等審議
	18日(水)	据置鉛分科会	SBA S 0601 据置鉛蓄電池の容量算出法 改正審議
	19日(木)	小形鉛分科会	SBA G 0206 小形制御弁式鉛蓄電池のキュービクル-熱設計に関する技術指針 改正審議
二次電池第2部会	2日(月)	据置LIB分科会	産業用LIBのIEC規格対応
	2日(月)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池の普及強化に向けた戦略実現検討
	4日(水)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討
	5日(木)	国際電池規格委員会	IEC規格 ANSI規格等の審議対応
	6日(金)	二次電池第2部会	各委員会からの報告および審議
	9日(月)	リチウム二次分科会	SC21A WG4会議結果共有
	9日(月)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討
	13日(金)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応
	16日(月)	CFP規格分科会	産業用LIBのカーボンフットプリント規格対応
	18日(水)	普及促進委員会	蓄電池の普及促進に関する提言検討
	18日(水)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池の普及強化に向けた戦略実現検討
	20日(金)	リユース規格分科会-リユース・リサイクルTF合同会議	リユース規格に関する審議
	23日(月)	PL委員会	安全啓蒙施策、事故情報集計
	25日(水)	定置用LIB普及強化WG	蓄電池の普及強化に向けた戦略実現検討
	26日(木)	ニカドニッケル水素分科会	ニカド・ニッケル水素電池 性能規格の改訂審議
	26日(木)	据置LIB分科会	産業用LIBのIEC規格対応、JIS用語・定義の確認
一次電池部会	11日(水)	コイン形リチウム二次分科会	SC21A WG3会議結果共有
	12日(木)	規格委員会	IEC60086-1、86-2-1、86-2-2、86-4、MT17審議
	13日(金)	技術委員会	国際幹事、規格委員会、コイン形リチウム二次分科会からの報告

10月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2024年10月）

（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

「その他の乾電池」を削除する。（2013年経済産業省機械統計より）

2017年9月より経済産業省機械統計のアルカリ乾電池「単三」「単四」は公開されていません。

2022年1月より経済産業省の機械統計は「その他のアルカリマンガン乾電池」は「アルカリ乾電池計」に統合されました。

2022年7月より経済産業省の機械統計は「アルカリ蓄電池(ニッケル・水素電池)」「その他のアルカリ蓄電池」は「アルカリ蓄電池計」に統合されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	354,642	136,390	109%	104%	3,199,735	1,283,158	95%	101%
一次電池計	239,013	9,709	105%	99%	2,155,496	92,244	104%	105%
酸化銀電池	61,706	1,900	131%	114%	543,578	16,774	104%	116%
アルカリ乾電池計	95,760	3,720	87%	88%	928,018	37,450	100%	101%
単 三	—	—	—	—	—	—	—	—
単 四	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—
リチウム電池	81,547	4,089	116%	105%	683,900	38,020	109%	105%
二次電池計	115,629	126,681	120%	104%	1,044,239	1,190,914	81%	101%
鉛電池計	2,644	21,595	102%	110%	23,218	183,932	99%	107%
自動車用	2,063	14,083	102%	108%	17,892	119,118	99%	106%
その他の鉛蓄電池	581	7,512	100%	115%	5,326	64,814	97%	109%
アルカリ蓄電池計	37,697	24,866	108%	91%	310,036	287,831	91%	113%
ニッケル水素	—	—	—	—	—	—	—	—
その他のアルカリ蓄電池	—	—	—	—	—	—	—	—
リチウムイオン蓄電池計	75,288	80,220	127%	108%	710,985	719,151	77%	96%
車載用	47,532	63,203	118%	101%	490,878	581,585	65%	88%
その他	27,756	17,017	146%	141%	220,107	137,566	130%	146%

10月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2024年10月）

（少数以下四捨五入（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

2016年より一次電池の輸入項目「アルカリ」が「アルカリボタン」「アルカリその他」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	173,655	69,300	109%	103%	1,657,863	657,988	93%	111%
一次電池計	113,278	3,872	127%	113%	958,946	35,284	108%	117%
マンガン	40	1	—	—	158	6	—	—
アルカリ	10,057	266	118%	135%	96,077	2,411	93%	113%
酸化銀	56,286	1,565	130%	125%	479,577	13,637	115%	128%
リチウム	46,895	2,011	126%	104%	383,133	18,849	105%	109%
空気亜鉛	0	0	—	—	0	3	0%	31%
その他の一次	0	29	122%	80%	1	380	304%	171%
二次電池計	60,377	65,428	86%	103%	698,917	622,704	77%	110%
鉛蓄電池	177	1,467	124%	116%	1,374	12,155	116%	120%
ニカド	230	81	96%	97%	1,801	660	82%	86%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	0	—	—
ニッケル水素	11,599	14,580	105%	94%	108,704	142,127	127%	122%
リチウムイオン	36,829	44,292	75%	123%	485,505	413,000	65%	115%
その他の二次	11,542	5,007	120%	47%	101,532	54,763	156%	71%
全電池合計（輸 入）	161,167	49,102	117%	87%	1,224,775	464,533	101%	104%
一次電池計	152,046	3,270	117%	122%	1,147,597	25,310	101%	111%
マンガン	12,763	207	173%	137%	77,499	1,323	84%	85%
アルカリボタン	2,700	27	129%	112%	23,678	245	94%	105%
アルカリその他	118,949	1,941	115%	118%	873,630	14,162	100%	105%
酸化銀	166	8	178%	163%	1,622	81	95%	119%
リチウム	14,846	994	114%	137%	120,310	6,618	123%	111%
空気亜鉛	2,621	70	60%	77%	50,792	1,025	117%	100%
その他の一次	0	22	31%	58%	65	1,856	289%	347%
二次電池計	9,120	45,832	124%	85%	77,178	439,223	103%	104%
鉛蓄電池	1,002	5,313	124%	112%	8,117	49,640	107%	111%
ニカド	164	138	159%	61%	674	2,139	129%	110%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	0	—	—
ニッケル水素	2,082	482	113%	114%	18,060	3,898	102%	90%
リチウムイオン	5,854	35,527	128%	84%	50,210	320,502	104%	101%
その他の二次	18	4,372	34%	68%	116	63,045	34%	113%